



申31号

2015年度夏季手当に関する申し入れ

第1回交渉(主旨説明)を行う!

組合

満額回答を勝ち取る決意を訴える!!

- ◆2014年度期末決算は、3期連続の増収だ。営業収益1兆9660億円(対前年101.7%)、経常利益3015億円(114.3%)であり前年を大きく上回ることが出来た。
- ◆2015年度通期の業績予想は連結・単体とも増収増益を予想している。
- ◆北陸新幹線の開業、上野東京ラインの開業で大きな収益を上げている。
- ◆訪日外国人の増加で鉄道などの内需型企業は恩恵を受けている。訪日者数は毎月増加し、4月は約176万人であり過去最高を記録した。今後さらに訪日者数が増えていく。
- ◆4月の月例報告では、「現状の景気は緩やかな回復基調が続いている。先行きについても緩やかに回復することが期待される。」としている。
- ◆株主配当を増やすが、組合員が納得できる成果配分がなければ納得がいかない!!
- ◆この間会社は「良い時は出す」と言い続けてきたことを実行するべきだ!!
- ◆職場はますます厳しい労働環境になっている。足を運び、目をこらし耳を傾けるべきだ!!
- ◆安全第一を肝に銘じて各種施策に取り組むべきだ!!

会社

- 好決算は景気の追い風があるものの、社員一丸となった努力の結果。感謝している。
- 一方、営業利益は増収だが、ピークの平成4年度の水準には遠く及ばない。収益は向上しているが、利益水準は低下し、コスト構造が大きく変わっている。固定比率が高い鉄道事業として労使ともに留意が必要。
- 経済動向も、昨年4月に基調判断を「回復している」から「回復基調にある」に引き下げたままであり、景気の先行きにも留意が必要。
- 中長期的には、少子高齢化、生産年齢人口の減少等これまで以上に厳しい経営環境。社内も急激な世代交代の中で安全で質の高いサービスを提供するため、課題を正面から受け止め確実に対処する必要がある。労使共通認識を持って欲しい。
- 夏季手当は、大局的に「業績、賃金改善、公益産業」等を総合的に判断する。
- 人件費は新人事賃金制度、2年連続の賃金改善によりベースが大きく上がっている。
- 電化柱倒壊、新幹線架線切断で世間の信頼を失った。会社を挙げて足下を固め信頼回復につとめなければならない。
- 以上を踏まえ早期合意に向け、真摯に精力的に交渉する。特段の協力を。

職場からの闘いで、満額回答を勝ち取るぞ!!